

神戸宣言 2019

「産学官医連携を基軸とした革新的医療機器の持続的創出を目指して」

前文

我が国は世界に先駆け超高齢社会を迎えており、高齢者が健やかに社会生活を営む「健康長寿社会」の実現が求められている。そのためには、健康の維持・増進や質の高い医療の提供に役立つ、革新的な医療機器の開発が不可欠であるが、我が国においては特に治療機器の分野において世界に後れを取っている。

近年、国産医療機器の開発促進に向けて、技術シーズと臨床現場ニーズとのマッチングや米国の医療機器開発エコシステムの導入など、日本各地で様々な試みがなされているが、開発環境や人材の不足など様々な課題も指摘されており、その成果は限定的なものとなっている。

2019年11月8日、「2019日米医療機器イノベーションフォーラム神戸」に米国及び我が国の医療機器開発をリードするプレーヤーが集い、我々が直面する医療機器開発における課題について多角的な議論を行なった。本フォーラムは、神戸での議論が我が国の医療機器開発の持続的な発展の礎となることを期待しつつ、ここに本宣言を掲げる。

1. 「2019日米医療機器イノベーションフォーラム神戸」における議論を踏まえて

(1) 超高齢社会への対応

- 世界にも通用する超高齢社会における実証モデルとして、製品開発・評価に高齢者を含む市民が積極的に参画できる特徴あるスキームを確立する。
- 予防医療の推進および高齢者の社会参加を促すためのサービスやデジタルヘルスなどをベースとしたコミュニケーションツールの開発を促進する。
- 低侵襲医療機器とイメージング技術やAIなどを融合することにより、高齢者に負担が少なく、安全で精緻な治療を可能にする革新的な医療機器の開発に努める。

(2) 治療機器を中心とした革新的医療機器開発を促進するための基盤整備 ～産学官医連携を基軸とした医療機器開発“日本型エコシステム”の形成～

- 医療機関は医療機器開発者に対し、イノベーション創出の「場」として開かれた臨床現場を提供する。
- 高い創造性が必要な医療機器開発の初期開発過程では、様々な分野のエキスパートで構成された多様性のある「チーム」が重要であることを産学官医で認識する。
- 医療機器開発のプロセスを熟知し、プロジェクトを俯瞰し、「チーム」を統率可能な「人材」を育成する。
- 育成された「人材」が革新的な医療機器の開発に没頭できる「環境」を産学官医が協力して整備する。



2. 次の「20年」を見据えて～神戸医療産業都市の新たな挑戦

神戸医療産業都市の取り組みは、2018年10月に20年の節目を迎え、産学官医が集積する国内有数のバイオメディカルクラスターへと成長した。

次の「20年」を見据えて―

- 本フォーラムを新たなスタートとし、神戸の地が産学官医連携を基軸とした革新的な医療機器開発の先端的なモデル地域となるよう、産学官医の対話と議論を継続する。
- 医療機器開発に携わる全ての関係者の努力と意志に敬意を表し、国内外の都市・地域の連携構築に取り組みつつ、互いに切磋琢磨することで、「健康長寿社会」の実現に資する革新的医療機器を持続的に創出する。

2019年11月8日

神戸市
公益財団法人神戸医療産業都市推進機構
国立大学法人神戸大学
US-Japan Medtech Frontiers

「神戸宣言」について

2019年11月8日、神戸市、神戸医療産業都市推進機構、神戸大学及び米国・シリコンバレーを拠点とする US-Japan Medtech Frontiers の4者により「2019日米医療機器イノベーションフォーラム神戸」が開催されました。

本フォーラムでは、日米の専門家による講演やパネルディスカッション、また医療機器開発の日本型エコシステム醸成について様々な議論が展開され、今後の革新的な医療機器の持続的な創出を促進すべく、本フォーラムの総括として「神戸宣言」を採択しました。

